



横浜市立一本松小学校

11月号

学校だより

元年10月31日
横浜市立一本松小学校
校長 小原 健人

オリンピック・パラリンピック教育で育つ「共生」の心

副校長 高木 圭子

朝晩の冷え込みが厳しくなったものの、昼間は秋らしい気持ちの良い日が多く、休み時間の校庭はラグビーボールをもって走り回ったり、長縄を跳んだりしている子どもたちの元気な姿を見るとほほえましく思えます。

さて、昨年度から本校はオリンピック・パラリンピック推進校の指定を受けていることはお伝えしているところですが、先日、教育長はじめ教育委員、指導主事など横浜市教育委員会の皆様が視察にお見えになり、「スクールミーティング」というものが開かれました。「スクールミーティング」とは本校の取組を教育委員会の皆様に説明したり、子どもたちの様子を参観していただいたりして意見交換を行うもので、皆さんとても興味深げに質問されたり、子どもたちの様子を笑顔でご覧になったりしていました。

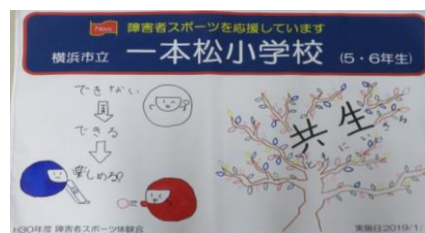
改めて、子どもたちの姿を振り返った時、総合的な学習の時間での取組や行事、委員会活動などを通して育まれているものは、オリンピック・パラリンピックを盛り上げようとする思いだけでなく「共生」への意識の高まりでした。子どもたちの作ったポスターの中に

「できない」→工夫→「できる」→「楽しめる」 共生・ともにいきる

というものがありません。(横浜ラポールに掲示してあります。)共生社会をつくる意識をもつことはオリンピック・パラリンピックの最も価値あるねらいの一つだと思います。この思いをもって、来る2020年のオリンピック・パラリンピックを迎えられる一本松小学校の子どもたちは開催国、開催地の一員として素晴らしい存在であると思います。そして、これからますます高まっていくオリンピック・パラリンピックへの関心とともに、様々な出来事、人と出会い、関わり「共生」の心を高めていくことでしょう。

意見交換では、本校の教育活動の軸となる「自分づくり」と「他者理解」がオリンピック・パラリンピック教育実践からも培われていることを褒めていただきました。何より子どもたちの発言、子ども同士の関わり、子どもたちの姿から感じていただけたことをうれしく思いました。

また、地域の方々、共育倶楽部、社会福祉協議会、幼保小、老松中ブロック、行政の方々、Viewnet 神奈川、横浜ラポール、ブエンカンビオ横浜…と校内だけでなく多くの方々につながり、そのかわりが子どもたちを支えていることが素晴らしいとの話もいただきました。学校だけではできない多くの経験を積み重ねていくことで子どもたちが成長していることに感謝いたします。



今月はオープンスクール、学習発表会があります。子どもたちの日頃の学習の成果をぜひご参観ください。今月もご支援ご協力のほど、よろしく願いいたします。